

TOKYO X生産者がカナダポーク生産者と意見交換

TOKYO X-Associationは、カナダ豚肉業界の輸出振興団体であるカナダポーク・インターナショナル(CPI)を招いて、8月31日(月)、東京都世田谷区にあるTOKYO X生産農場の吉実園にて、TOKYO Xの見学会を開催した。日本に対する豚肉輸出・生産体制の情報収集のために来日したCPIのメンバーは、エグゼクティブ・プロデューサーのジャック・ボメロー氏のほか、アルバーター、オンタリオ州などの生産者ら14人。当日は、台風の近づく中、TOKYO X-Associationの植村光一郎会長や吉実園の吉岡幸彦氏らと意見交換を行った。

吉岡氏は造園業を本業とし、約2haの敷地を有する。当初は、木に与えたい肥を確保するために豚や鶏を飼い始めたが、10年程前からTOKYO Xに切り替え、現在は常時20～30頭を飼育している。庭先に設置された豚舎は、運動場なども備えており、広く囲われた柵の中で、豚たちは伸び伸びと動きまわっていた。また、約400羽の採卵鶏も放し飼いされており、鶏が園内の雑草を食べてくれるため、雑草処理の経費を抑えら



吉実園へ見学に来たカナダの生産者ら。(中央下、吉岡氏。右、植村会長)



“DANRAN亭”でTOKYO-Xの試食を楽しむ

れているという。

意見交換では、吉岡氏から循環型農業などを実践している経営内容の説明、植村会長からはTOKYO Xの開発経緯やマーケティングの取り組み、アニマルウェルフェアなどの説明が行われた。また、植村会長は、むやみな生産体制の拡大は避け、おいしさだけでなく、安全で安心な品質のTOKYO Xの生産を目指していると、今後の生産方針などを語った。

一方、カナダの生産者からは、TOKYO Xの生産や流通体制、アニマルウェルフェアなどについての質問が盛んに行われていた。

その後、参加者は立川市に移動。(株)ミートコンパニオンが経営する『七輪牛タン“DANRAN亭”』で、TOKYO Xを焼肉で堪能した。試食会でも意見交換が行われ、吉岡氏は、「冬になると豚たちと一緒に寝る」など、TOKYO Xへの愛着を熱心に語っていた。また、「カナダポークもおいしいが、TOKYO Xが世界で一番」の言葉に、店内は笑顔に包まれていた様子だった。

(富田國路・東京農業大学2年)